

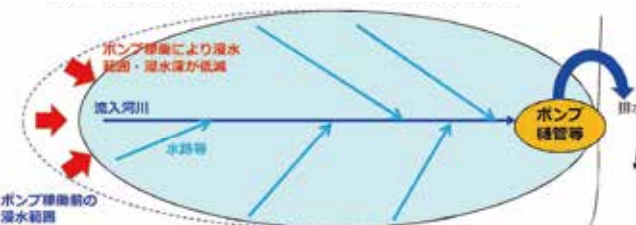
浸水継続時間について

洪水時に避難が困難となる浸水深 50cm を上回る時間の目安を示し、立ち退き避難の要否の判断に有用な情報としてご確認下さい。

浸水継続時間が長い地域では、立ち退き避難を行わなかった場合、屋外への避難が困難となり孤立する可能性が高く、電気・ガス・水道・トイレが使えないなど生活に支障が出るおそれがあります。浸水継続時間が長いおそれのある区域にお住まいの方は、事前に避難するようにしましょう。また、浸水継続時間に合わせた非常食等の備蓄を心がけましょう。

○破堤による氾濫のシミュレーションにおいて、浸水が0.5mを上回る時間の目安を示します。

- 浸水継続時間は、洪水時に避難が困難となる一定の浸水深（0.5m）を上回る時間の目安を示しています。
- 浸水域内の大規模な河川（支川）を「排水河川」として設定を行い、氾濫水やポンプ排水等が排水河川へ流入することにより、堤内地の排水が時系列で進行していく状況を表現しています。
- 排水施設の操作については、想定される浸水時に排水機能が確実に確保できる既設の排水機場及び水門等（水門、樋門、樋管）を対象としています。



排水河川、排水施設の例（イメージ）

出典：国土交通省 淀川河川事務所「淀川洪水浸水想定区域」より